



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

橋をかける

先日、廊下を掃除している友達に、細かな所を掃くための道具を届けにきてくれた子供がいました。友達を使うだろうと考えて、そっと持ってきてくれたことに対し、「持ってきてくれてありがとう」と声をかけていました。2人ともとてもいい表情をしていて、素敵だなあと思いました。自分のちょっとした行動が、友達の助けに繋がり、「ありがとう」の言葉でお互いの心が温かな思いで繋がり合える。こういうことは、日常の中でたくさん行われていることと思いますが、その瞬間に出会えることに幸せを感じます。次の日には、「僕のことを教室でもみんなに話してくれたんだ」と嬉しそうに話してくれました。このことにも大きな意味があると思っています。友達の良さをみんなと共有していくことは、みんなの力にも繋がっていくことであると考えます。自分が受けた温かな気持ちや言葉を言葉に出して伝えるということは、感じている当人同士を越えて、同じ空間にいる人達の心に伝わっていくからです。温かな心がさらに大きく広がっていったことを嬉しく思いました。

2019年、38年ぶりに日本に来日されたローマ教皇の言葉が思い出されました。「人と人の中に壁を作るのではなく、壁を壊して、橋をかけていきましょう」という言葉です。「橋をかける」ためには、言葉が大切なものとなるだろうと考えます。言葉は思いをのせていくものであり、良い言葉は、人と人を繋ぐものであるからです。「ありがとう」という言葉は大切な言葉の一つ。けれど、人を傷つける言葉は、人と人との間に亀裂を生じさせるとともに、自分

自身も傷つけ、それを聴いている仲間も傷つけるものになると考えます。だからこそ、言葉を大切にしていきたいと思っています。

精神分析学の創始者として知られるS・フロイトが「人間にとって最も大切なことは何か」と問われた時に、「愛することと働くことである」と答えたということを大学の講義で学んだことがあります。その中で「愛すること」というのは、好き・嫌いという感情を越え、意志の力なのだということも教えていただきました。

感情を越えて自分の生き方を決定していくことは、誇れる自分になれると同時に強さを求められるものであろうと思います。ローマ教皇が話された、「橋をかける」ためには、感情を越え、意志の力で言葉を使っていくことが大切なことになるだろうと思っています。

622万3401人(文科省：学校基本調査令和3年度8月：「全国の小学校在籍者数」)の中で、467人(令和4年1月現在)が入谷小学校の児童として集い出会えたことは、確率的に奇跡的ではないでしょうか。この奇跡的な出会いの中で、一人一人には、その人にしかない素晴らしさがあることをみんなが知り、共有していくことでお互いが繋がり合える関係を日々築きあげていくことを大切にしていきたいと思っています。そして、豊かな繋がりを創っていけるように、良い言葉をお互いに使うことができることも大切にしていきたいと思っています。

これから、様々な課題を多くの人達と協働的に解決していくことが求められる社会の中で生きていこうと言われている子供たちに、同じ空間、同じ場所に集うことができた仲間と感情を越えて関わる強さを、御家庭と共に育てていくことも大切にしていきたいと思っています。